



## 緊張を乗り越えて得たもの

～運動会 一景より～

校長 中村 順子

本校では例年、5月または9月に運動会を行っていましたが、今年度は他の行事との関係で初の10月開催となり、10月21日（土）に実施しました。

コロナ禍では縮小せざるを得なかった運動会ですが、今年度はぜひできるだけ多くの種目を児童に経験させようと年度当初から検討を重ねた結果、各学年の得点種目と全校での「大玉送り」を復活させ、また給食をはさんで午後も行うことに決めました。そして晴天に恵まれた運動会当日。練習の成果を多くの皆様に見ていただいている喜びを感じながら、全力で演技する子供たちの姿でいっぱいになりました。

1年生から6年生、どの学年の子供たちからも輝く笑顔がたくさん見られた運動会でしたが、その中で、放送係を担当した6年生の児童のつぶやきが私の心に残りました。

6年生児童全員による「マーチングパレード」は、運動会の中でも花形、1～5年生の児童の憧れの演目です。演奏中はハイレベルなフォーメーション演技も披露し、曲の合間には多くの拍手が6年生に送られました。フィナーレの曲が終わり、ドラムマーチで校庭を一周すると、会場からはさらに大きな拍手が起り、6年生を包みこみました。

「緊張したっ!」。演技が終わり、本部がある放送席に走って戻ってきた放送係の児童の第一声でしたが、その顔は満面の笑みでした。「緊張」とは、これから始まるのがうまくいかどうか心配しているときに感じる気持ちです。6年生の爽やかな笑顔は、その緊張と正面から対峙したからこそ得られたものなのでしょう。友達と心を合わせ、声を掛け合い、励まし合いながら練習を重ねたことが自信となり、緊張を乗り越えたのだと思います。

私の担任時代は、マーチングパレードの練習には、かなりの時間を使っていました。もちろん今はそのようなことはなく、担当する教員が計画的に進めており、練習時間は限られています。少ない練習時間ではありましたが、日々練習を積み重ねたり友達や教員から励ましてもらったりしたことで、つい数日前までは自信がなさそうな表情で下を向いていた児童が、徐々に顔を上げて演奏するようになり、本番では堂々と胸を張ることができたのでした。

最近、子供が困難に直面したときに、大人が先回りをして解決してしまうような風潮があるように感じます。しかし本当は、子供は自分で壁を乗り越える力をもっています。努力を重ねた結果、緊張を乗り越えた6年生たち。きっとこの経験には、何事にも代えがたい大きな価値があり、今後の彼らの人生の中で意義深いものになると期待しています。

運動会という行事を通して、子供たちはまた一回り成長することができました。6年生が真剣に努力する姿を見た下学年は、6年生への憧れと同時に、また併せて今後への意欲ももつことでしょう。それが「伝統の継承」にもなっていきます。

今回の運動会を通して全校児童がさらに一体となり、再来年度の150周年に向けて新たな歩みを始めた豊川小学校を、今後も応援して頂けよう、お願い致します。

